

# 第1 熊本県立高等技術専門校の施設概要

## 1 校の沿革

昭和21年の設置以降、ニーズの変化等に対応し訓練科を改変。

S21. 8. 1	熊本市宮内町1番地に熊本県立熊本特設補導所を設置
S22. 10. 21	熊本市南高江町2718番地に移転
S24. 4. 10	熊本市宮内町1番地に移転
S27. 6. 2	飽託郡田迎町382番地（現：熊本市南区幸田）に移転
S33	【(旧) 職業訓練法制定】
S33. 7. 1	職業訓練法の施行により熊本県立熊本職業訓練所と改称
S38. 4. 1	熊本市御幸笛田町375番地（現：熊本市南区幸田1-4-1）に移転
S39	[熊本県職業訓練所条例制定]
S44	【(新) 職業訓練法制定】
S44. 10. 1	[熊本県立専修職業訓練校条例施行]
S44. 10. 11	熊本県立熊本専修職業訓練校と改称
S52. 4. 1	条例改正により熊本県立熊本高等職業訓練校と改称
S60	【職業能力開発促進法制定】
S62. 4. 1	条例改正により熊本県立熊本高等技術訓練校と改称
H25. 4. 1	条例改正により熊本県立高等技術専門校と改称

※ 参考「訓練科の変遷一覧表等」資料を末尾に掲載している。

## 2 校の目的（理念）

熊本県立高等技術専門校は、職業能力開発促進法の趣旨に則り、それぞれの訓練科に応じた職業訓練を行い、職業人としての人間形成に努め、高度な知識と即戦力となる技術、技能を習得した有能な中堅技術者を養成し、職業の安定と働く人の地位の向上を図るとともに、本県の地域産業と社会の発展に寄与することを目的とする。

※ \_\_\_\_\_部分は今回のビジョンで追加。

## 3 施設概要

- ・ 所在：熊本市南区幸田
- ・ 敷地面積：20,096 m<sup>2</sup>（うち、グラウンド部分は4,000 m<sup>2</sup>程度）
- ・ 建物総床面積：8,775 m<sup>2</sup>（主な建物：実習棟7棟、教室棟、体育館、寄宿舎、管理棟）
- ・ 職員定数：46人（うち3科関係は19人。H31.4時点。）
- ・ 施設内訓練3科の入校定員数（1年当たりの受入定員数）：50人
- ・ 施設内訓練3科の施設定員数（1つの時点での在籍者定員数）：115人

## 4 訓練科概要等

### (1) 概要

職業能力開発校の施設内訓練は、国の職業能力開発施策体系の中で普通職業訓練（地域の実情に応じ、職業に必要な基礎的な技術・知識を習得させるための訓練）を主に学卒者（高等学校卒業生、中学校卒業生）に対して行う施設として位置づけられており、訓練の種類は普通課程（訓練期間は1年以上4年以下）又は短期課程（訓練期間は1年以下）とされている。

職業訓練の基準は、職業能力開発促進法及び同法施行規則（以下「規則」という。）に定められており、規則では普通課程の訓練科として144科が設定されている。

専門校の施設内訓練は現在、普通課程として自動車車体整備科、電気配管システム科、総合建築科の3科、短期課程として販売実務科（対象は知的障がい者）の1科、合計4科により実施している。

訓練の種類		学科名	訓練期間	1学年の定員
普通職業訓練	有能な中堅技術者を養成	自動車車体整備科	3年	15人
		電気配管システム科	2年	20人
		総合建築科	2年	15人
		販売実務科 ※知的障がい者対象	1年	16人

- ・自動車車体整備科（規則の訓練科名は、自動車整備科及び自動車車体整備科（2科分））
- ・電気配管システム科（規則の訓練科名は、電気工事科及び配管科（2科分））
- ・総合建築科（規則の訓練科名は、木造建築科）

※ 参考「職業能力開発施設の訓練科（普通課程）一覧」資料を末尾に掲載している。

※ 参考「専門校3科関係職種の有効求人倍率等の推移」資料を末尾に掲載している。

### (2) 教育訓練の主な特徴

- ① 少人数定員の訓練生に対するきめ細やかな指導
- ② 即戦力となる技術者を養成するための実技に重点を置いた指導
- ③ 社会ニーズに沿った、職業人としての自覚が養われる指導
- ④ 各種の資格取得に向けた実践的な指導
- ⑤ 技能連携制度（総合建築科）

### (3) 魅力

- ① 就職率100%（9年連続）
- ② 資格取得
- ③ 少ない経費負担

[参考] 九州各県の職業能力開発校の設置状況（※普通課程（訓練期間1年以上））

	熊本	福岡	佐賀	長崎	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
専門校数(校)	1	7	1	2	4	2	4	2
学科数(科)	3	14	5	14	9	4	8	5
自動車整備科(校)	1	3	1	2	1		1	2
電気科(校)	1	2	1	2	1	1	1	1
建築科(校)	1		1	2	1	1	1	
訓練生総数(人)	115	440	160	410	192	160	290	150

## 第2 専門校の施設内訓練の現状

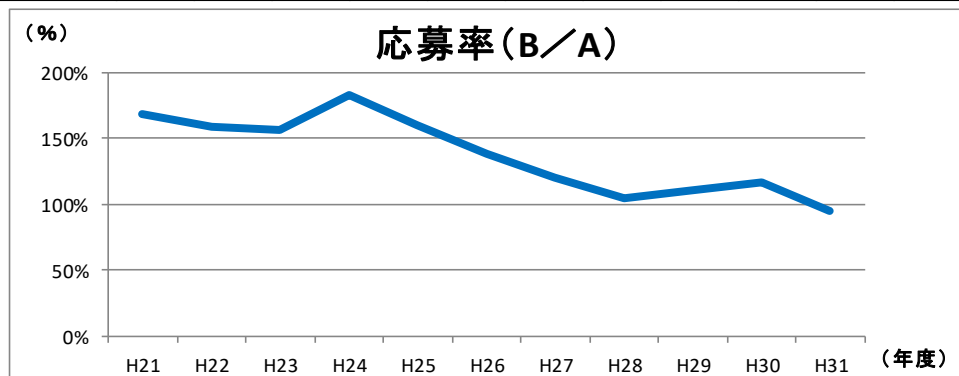
### 1 応募から修了までの状況（3科合計）

#### (1) 入校者の状況

##### ① 応募率の状況

以前は応募者数も定員の150%を超える状況であったが、近年は景気の回復による求人の増加、少子化やものづくり離れなどもあり、定員をやや超える応募状況となっている。

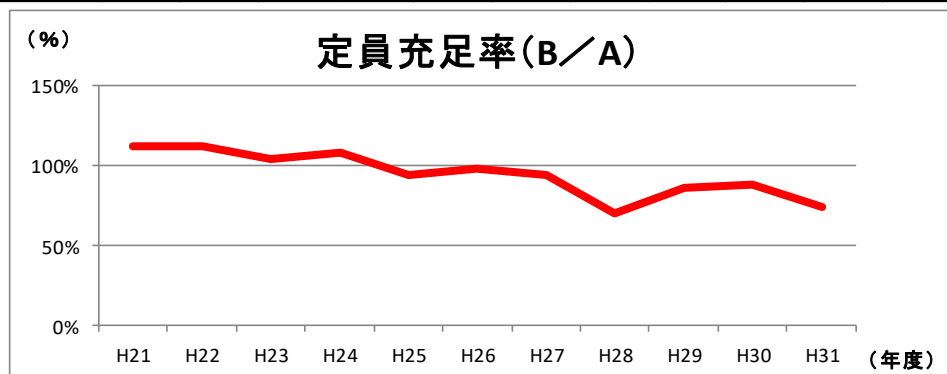
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
入校定員数A	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
応募者数B	84	79	78	91	80	69	60	52	55	58	47
応募率(B/A)	168%	158%	156%	182%	160%	138%	120%	104%	110%	116%	94%



##### ② 入校者数及び定員充足率の状況

以前は各科において対応できる人数の受け入れを行っており、定員を超える充足率であったが、応募者の減少に伴い充足率も低下してきている。

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
入校定員数A	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
入校者数B	56	56	52	54	47	49	47	35	43	44	37
定員充足率(B/A)	112%	112%	104%	108%	94%	98%	94%	70%	86%	88%	74%



### ③ 入校者の出身地域の状況

本校は熊本市内に位置していることもあり、過去11年間では入校生の約44%は熊本市エリアで占めている。

普通課程の職業能力開発施設は本校のみ（寄宿舎設置）であるため、熊本市エリア以外の県下各地からも入校しており、県央エリアは約16%、県北エリアは約19%、県南エリアは約6%、天草エリアは約14%となっている。

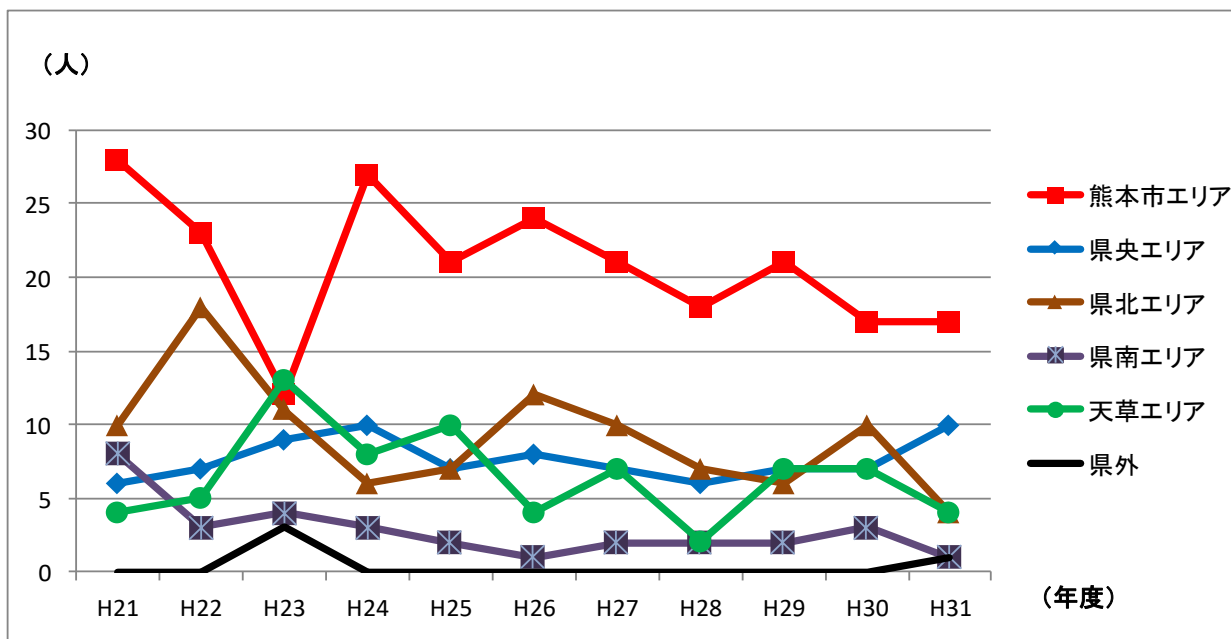
なお、県外からの入校生は少なく（1%未満）、熊本県民のための人材育成機関となっている。

(単位:人)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
熊本市エリア	28	23	12	27	21	24	21	18	21	17	17
累計	28	51	63	90	111	135	156	174	195	212	229
県央エリア	6	7	9	10	7	8	7	6	7	7	10
累計	6	13	22	32	39	47	54	60	67	74	84
県北エリア	10	18	11	6	7	12	10	7	6	10	4
累計	10	28	39	45	52	64	74	81	87	97	101
県南エリア	8	3	4	3	2	1	2	2	2	3	1
累計	8	11	15	18	20	21	23	25	27	30	31
天草エリア	4	5	13	8	10	4	7	2	7	7	4
累計	4	9	22	30	40	44	51	53	60	67	71
県外	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1
累計	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	4

※ この表では県央エリアは熊本県県央広域本部管内市町村(熊本市を除く。)とし、県北エリアは県北広域本部、県南エリアは県南広域本部、天草エリアは天草広域本部管内市町村としている。

※ 累計はH21年度から当該年度まで値の合計値

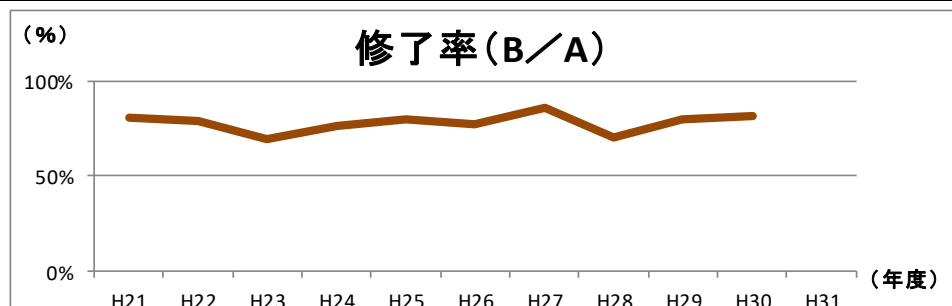


## (2) 入校後の訓練生の(修了率)状況

入校後に様々な事情で退校する者もあり、修了率はおよそ80%となっている。

理由としては就職や進路変更が多いが、電気配管システム科では1年次で退校し電気関係へ就職している者もいる。

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
入校者数A	51	57	56	51	53	48	50	47	35	43	45
修了者数B	41	45	39	39	42	37	43	33	28	35	
修了率(B/A)	80%	79%	70%	76%	79%	77%	86%	70%	80%	81%	



## (3) 就職状況

### < 求人状況 >

本校は無料職業紹介事業所であり、直接求人票を受け付けているが、そのほとんどが訓練科に対応した求人である。

近年は若手技術者不足で県内求人増加もあるが、特に県外からの求人増加が著しくなっている。

### < 就職状況 >

就職を希望する求職者については100%就職を継続している。

そのほとんどが訓練で修得した技能・資格を活用できる企業に就職している。

(施設内訓練3科合計)		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
修了者数		41	45	39	39	42	37	43	33	28	35		
就職者数(A)		35	38	37	38	39	37	42	33	27	35		
自営・縁故・自己就職		3	4	1	1	0	0	6	0	1	0		
進学他		6	7	2	1	3	0	1	0	1	0		
就職状況	求人	求人数	県内	45	59	59	67	87	81	70	50	76	94
			県外	14	11	12	12	24	29	42	58	53	63
		求人数計(B)	59	70	71	79	111	110	112	108	129	157	
	求人倍率(B/A)		1.69	1.84	1.92	2.08	2.85	2.97	2.67	3.27	4.78	4.49	
	就職	県内(D)		31	35	31	37	37	31	38	20	21	35
		県外		4	3	6	1	2	6	4	13	6	0
		就職者計(C)		35	38	37	38	39	37	42	33	27	35
		未決		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	就職率(C/A)		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	県内就職率(D/C)		89%	92%	84%	97%	95%	84%	90%	61%	78%	100%	

### < 県内就職率 >

平成29年度から県内就職率を高めるための取組みを強化してきた結果、平成30年度に県内就職率100%を達成した。

## 2 各訓練科の概要

### 自動車車体整備科

#### 概要

自動車整備と車体整備の基礎的な知識、技術、整備方法からハイブリット車や電気自動車などの最新技術を習得し国家資格（2級自動車整備士、車体整備士）を取得する。また、サービスマンとして顧客への接客方法を身に付ける。

○ 訓練期間：3年      ○ 入校対象者：高等学校卒業生等      ○ 入校定員：15人

#### カリキュラム～構成と内容～

##### (1) 1年目～2年目

自動車の構造や機能の基礎的な知識及び基本的な整備技術の訓練内容

- ・自動車用各種エンジン本体及び付属装置の分解整備ができること
- ・自動車シャシ各部及び車体の分解整備ができること
- ・整備用機械器具及び測定器の取扱いができること
- ・自動車の定期点検整備及び車体検査ができること
- ・主要装置の故障診断ができること
- ・2級整備士の資格を取得できること

##### (2) 3年目

自動車のボデーやフレームの修理（板金）技術と塗装技術の訓練内容

- ・整備用機械、器工具及び計測器の取扱いがよくできること
- ・シャシの装置について分解、整備ができること
- ・車枠、車体及び付属装置の修理がよくできること
- ・自動車塗装、塗料の調色及び補修塗装がよくできること
- ・自動車の損傷診断及び車体検査ができること
- ・自動車車体整備士の資格を取得できること



#### 特色と魅力

- ・3年間の技術訓練によって自動車整備及び車体整備の幅広い技術を身に付けることができる。
- ・就職先の選択肢（自動車整備、板金、塗装）が広がる。
- ・国家資格（2級自動車整備士、車体整備士）の養成施設で実技試験免除で資格取得。
- ・訓練期間中に、技能講習修了などの資格が取得でき、就職に有利である。

#### 取得可能資格

- ・2級ガソリン自動車整備士（実技試験免除）及び2級ジーゼル自動車整備士（実技試験免除）
- ・自動車車体整備士（実技試験免除）
- ・中古自動車査定士、第二種電気工事士
- ・技能士補
- ・技能講習修了証（ガス溶接）
- ・特別教育修了証（アーク溶接、低圧電気取扱、タイヤ空気充てん、研削と石、小型建設機械運転）

#### 進路

- 各自動車販売ディーラー（サービス部）      ○ 民間車検整備工場
- 民間板金塗装工場      ○ 特別民間法人、団体 など

# 電気配管システム科

## 概要

電気・給排水・ガス・空調・消防設備などの建築設備の知識・施工技術を習得するとともに、太陽光発電設備やエコキュート等の新技術の知識・技能を習得する。

更に、施工に必要な各種資格習得を目指す。

- 訓練期間：2年
- 入校対象者：高等学校卒業者等
- 入校定員：20人

## カリキュラム～構成と内容～

### (1) 1年目

電気分野を主体とした訓練内容

- ・ 工具の基本使用法
- ・ 各種電気工事の施工
- ・ 各種の測定方法
- ・ リレーシーケンス制御
- ・ 第1種電気工事士試験受験
- ・ 太陽光発電設備の施工
- ・ 派遣応用実習（企業現場を体験）
- ・ 外線工事
- ・ 建築配管2級技能士（実技）受験
- ・ LAN工事の施工



### (2) 2年目

設備分野を主体とした訓練内容

- ・ 溶接実習
- ・ CADの操作
- ・ 2級電気工事施工管理技士学科受験
- ・ エコキュート設備の施工
- ・ 消防設備の施工方法
- ・ 消防設備士試験受験
- ・ 空調設備の施工
- ・ 2級管工事施工管理技士学科受験
- ・ LPガス講習



- ・LPガス設備士試験受験
- ・衛生器具の施工方法
- ・派遣応用実習（企業現場を体験）
- ・電気工事の施工方法を復習



## 特色と魅力

- ・第2種電気工事士の養成施設であり、試験免除で資格が取得できる。
- ・液化石油ガス設備士養成施設であり、校内での受験ができる。
- ・2年間の訓練で電気工事と管工事(水道・ガス・空調)の多くの知識・技術を習得でき、これにより、自分にあった仕事を選択することができる。
- ・実践的な実習を行っており、企業の即戦力となれる人材を育成する。
- ・新技術である太陽光発電設備やエコキュート設備の施工技術なども学ぶことができる。
- ・将来、現場を任される施工管理技術者としての人材育成を目指しており、独立しての会社経営も夢ではありません。

## 取得可能資格

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2種電気工事士免状</li> <li>・液化石油ガス設備士免状</li> <li>・2級電気工事施工管理技士（学科）</li> <li>・2級技能士「建築配管」（実技）</li> <li>・アーク溶接特別教育修了証</li> <li>・研削と石特別教育修了証</li> <li>・技能士補（技能照査合格者）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1種電気工事士試験合格証</li> <li>・消防設備士免状</li> <li>・2級管工事施工管理技士（学科）</li> <li>・ガス溶接技能講習修了証</li> <li>・小型建設機械運転特別教育修了証</li> <li>・低圧電気取扱特別教育修了証</li> </ul> |
|---|--|

## 進路

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電気設備工事関連企業</li> <li>○ 建築設備工事関連企業</li> <li>○ 制御機器製作企業</li> <li>○ 環境設備保全関連企業</li> <li>○ 消防設備工事関連企業 など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 空調設備工事関連企業</li> <li>○ ガス設備工事関連企業</li> <li>○ 通信設備工事関連企業</li> <li>○ 電気設備保全関連企業</li> </ul> |
|---|--|



# 総合建築科

## 概要

日本の環境にあった建築物を創り出す優れた技能者（建築大工）の人材育成を行う。

大工道具の刃物の研ぎ方やノコギリ・カンナ・ノミ等の使い方から始め、在来軸組工法の本造建築を中心に基礎工事から木造の墨付け・加工・組立などの技術を学び、住宅を建てる技術の習得を目指す。

○ 訓練期間：2年      ○ 入校対象者：義務教育修了者以上      ○ 入校定員：15人

## カリキュラム～構成と内容～

### (1) 1年目

個別指導を中心とした訓練

- ・大工道具の取扱い方  
(のこ、ノミ、カンナ等)
- ・1年実習課題の製作  
(躯体工事、小屋組み、内部造作等)
- ・ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育
- ・3級技能士国家試験
- ・応用実習



### (2) 2年目

グループ指導を中心とした訓練

- ・丸のこ安全教育、研削砥石特別教育
- ・実寸の模擬家屋住宅の製作
- ・福祉住環境コーディネーター検定試験
- ・小型建設機械運転講習
- ・企業派遣実習
- ・2級技能士国家試験



## 特色と魅力

- ・3級技能士と2級技能士の国家資格が取得できる。
- ・実践的な実習で、知識として知ることから、出来るまでの本物の実力が身につく。
- ・建築設計に必要なドラフターやCADによる建築図面が描けるようになる。就職先は建設業で建築大工、宮大工、型枠大工、建築士として活躍できる。
- ・将来自分の家や家族の家はもちろん後世に残る建築物を自分の腕で建てる事ができる。
- ・将来、独立して会社を設立し、社長になれる。
- ・中学校のみ卒業の方には技能連携制度により高校卒業の資格が取りやすくなる。

## 取得可能資格

- |                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| ・2級技能士「建築大工」       | ・3級技能士「建築大工」                |
| ・ガス溶接技能講習修了証       | ・アーク溶接特別教育修了証               |
| ・研削と石特別教育修了証       | ・小型建設機械運転特別教育修了証            |
| ・福祉住環境コーディネーター(2級) | ・丸のこ等取扱作業従事者安全衛生教育(18歳以上)   |
| ・技能士補(技能照査合格)      | ・2級建築士(高卒者は終了後2年の実務経験で受験資格) |

## 進路

- |                 |                          |
|-----------------|--------------------------|
| ○ 木造住宅を専門とする工務店 | ○ 寺社建築を専門とする工務店          |
| ○ 建築設計事務所       | ○ 建設工事関連企業(建具、型枠、建築板金など) |



### 3 各訓練科の就職状況等

#### (1) 自動車車体整備科

##### ① 訓練科のニーズ（求人状況）

求人倍率は平成24年から安定しており2倍以上の推移を維持している。

平成28年からは4倍近くに上り、需要に対して十分な供給が出来ていないのが現状である。

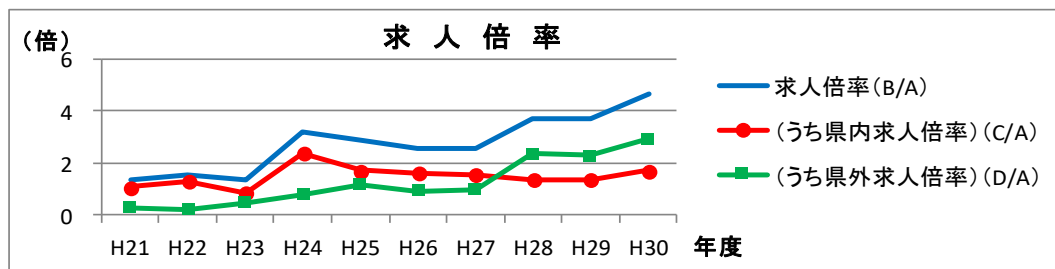
整備事業所数や整備工員数は微増傾向にあるということで、自動車整備の高度化や複雑化や専門工場の整備士が高齢化していることから、今後、自動車整備士を増やしていく必要がある。

なお、求人倍率は平成27年までは県内が県外より高かったが、平成28年からは逆転現象となっている。

(単位:人)

(自動車車体整備科)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
修了者数	14	13	15	10	11	16	16	14	13	14
求職者数 (A)	14	13	15	10	11	16	16	14	13	14
求人数 (企業数) (B)	19	20	20	32	32	41	41	52	48	65
(うち県内) (C)	15	17	13	24	19	26	25	19	18	24
(うち県外) (D)	4	3	7	8	13	15	16	33	30	41
求人倍率 (B/A)	1.4	1.5	1.3	3.2	2.9	2.6	2.6	3.7	3.7	4.6
(うち県内求人倍率) (C/A)	1.1	1.3	0.9	2.4	1.7	1.6	1.6	1.4	1.4	1.7
(うち県外求人倍率) (D/A)	0.3	0.2	0.5	0.8	1.2	0.9	1.0	2.4	2.3	2.9

修了者数、求職者数は当該年度の数。求人数は当該年度の求職者に対応する求人(前年度または当年度)としている。



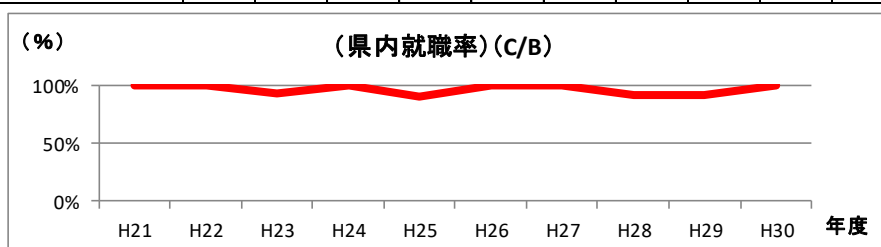
##### ② 就職状況（地域産業への人材供給の状況）

###### ア 県内就職率

就職率は、平成21年から現在まで100%を維持しており、そのほとんどが県内の自動車メーカー系列の販売ディーラーや板金塗装工場等の企業（県外に本社を持つ企業で、県内に営業所を有する企業も含む）に就職している。

(単位:人)

(自動車車体整備科)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
求職者数 (A)	14	13	15	10	11	16	16	14	13	14
就職者数 (B)	14	13	15	10	11	16	16	14	13	14
(うち県内) (C)	14	13	14	10	10	16	16	13	12	14
(うち県外) (D)	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0
就職率 (B/A)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(うち県内就職率) (C/B)	1.0	1.0	0.9	1.0	0.9	1.0	1.0	0.9	0.9	1.0
(うち県外就職率) (D/B)	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0

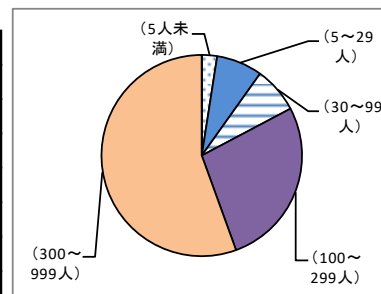


## イ 就職者の就職先事業所規模

### (ア) 県内就職者

就職者のほとんどが自動車メーカー系列の販売ディーラーに就職していることから、9割以上が従業員数100人以上の比較的規模の大きい企業に就職している。

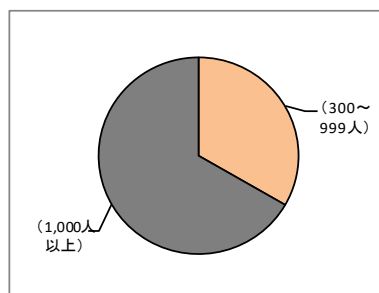
事業所規模	H25	H26	H27	H28	H29	H30	6年計
(5人未満)			2				2
(5~29人)	1	1		2	2		6
(30~99人)		1	1	1		3	6
(100~299人)	2	9	2	4	2	3	22
(300~999人)	7	5	11	6	8	8	45
(1,000人以上)							0
合計	10	16	16	13	12	14	81



### (イ) 県外就職者

上記(ア) 県内就職者と同様の傾向にある。

事業所規模	H25	H26	H27	H28	H29	H30	6年計
(5人未満)							0
(5~29人)							0
(30~99人)							0
(100~299人)							0
(300~999人)	1						1
(1,000人以上)				1	1		2
合計	1	0	0	1	1	0	3



## ③ 訓練(修了)生の資格取得の状況(実績)

修了年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
2級ガソリン自動車整備士	受験者数	15	10	12	16	16	14	13	14
	合格者	15	10	12	16	16	14	13	14
	合格率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
2級ジーゼル自動車整備士	受験者数	15	10	12	16	16	14	13	14
	合格者	15	10	12	16	16	14	13	14
	合格率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
自動車車体整備士	受験者数	15	10	12	16	16	14	13	14
	合格者	15	9	12	14	16	12	13	14
	合格率	100%	90%	100%	88%	100%	86%	100%	100%
中古自動車査定士	受験者数	14	10	12	16	15	14	13	14
	合格者	13	10	12	16	15	14	13	13
	合格率	93%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	93%
第2種電気工事士	受験者数					16	14	13	14
	合格者					14	12	13	14
	合格率					88%	86%	100%	100%
ガス溶接技能講習修了者	受講者数	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得者	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
アーク溶接特別教育修了者	受講者数	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得者	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
研削と石特別教育修了者	受講者数	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得者	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
小型建設機械特別教育修了者	受講者数	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得者	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
低圧電気取扱業務に係る特別教育修了者	受講者数	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得者	15	10	12	16	16	14	13	14
	取得率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
技能照査合格者	受験者数	15	10	12	16	16	14	13	14
	合格者	13	10	12	14	16	12	13	14
	合格率	87%	100%	100%	88%	100%	86%	100%	100%

## (2) 電気配管システム科

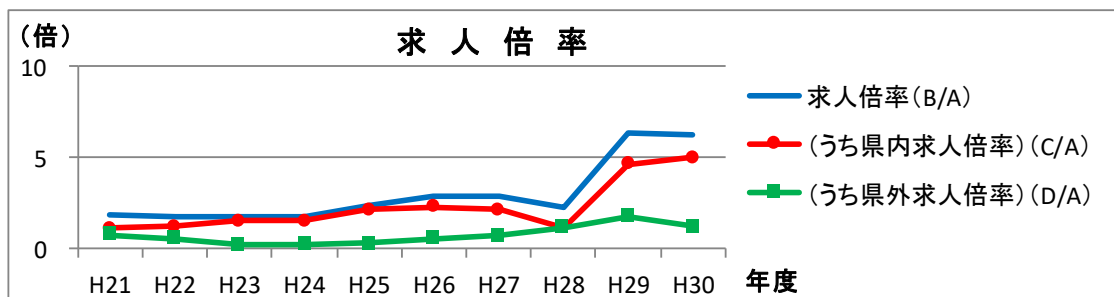
### ① 訓練科のニーズ（求人状況）

求人倍率は平成21年から平成24年までは2倍弱で推移していたが、関係労働者の高齢化に伴い平成25年からは上昇傾向にあり、熊本地震からの復旧で事業量が拡大し、平成29年は6倍を超えている状況である。

なお、求人倍率は県内が県外より高い数値で推移しているが、大都市における建設ラッシュも重なり県外からの求人（大手企業）も増加傾向にある。

(単位:人)

(電気配管システム科)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
修了者数	12	17	15	18	18	13	18	13	8	9
求職者数 (A)	12	15	15	18	17	13	17	13	8	9
求人数 (企業数) (B)	22	26	26	31	41	37	48	30	51	56
(うち県内) (C)	13	18	23	27	36	30	36	15	37	45
(うち県外) (D)	9	8	3	4	5	7	12	15	14	11
求人倍率 (B/A)	1.8	1.7	1.7	1.7	2.4	2.8	2.8	2.3	6.4	6.2
(うち県内求人倍率) (C/A)	1.1	1.2	1.5	1.5	2.1	2.3	2.1	1.2	4.6	5.0
(うち県外求人倍率) (D/A)	0.8	0.5	0.2	0.2	0.3	0.5	0.7	1.2	1.8	1.2



### ② 就職状況（地域産業への人材供給の状況）

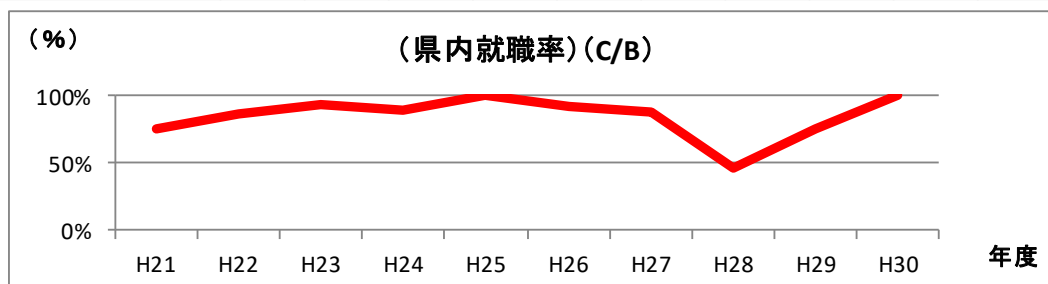
#### ア 県内就職率

就職率は、平成21年から現在まで100%を維持しており、その70%程度が県内の電気工事及び設備関係に企業に就職していた。

近年は、県外の大手企業からの求人が給与や福利厚生などで県内企業よりも充実していることもあり、県外企業への就職が増加した時期もあったが、平成30年度に県内就職率100%を達成した。

(単位:人)

(電気配管システム科)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
求職者数 (A)	12	15	15	18	17	13	17	13	8	9
就職者数 (B)	12	15	15	18	17	13	17	13	8	9
(うち県内) (C)	9	13	14	16	17	12	15	6	6	9
(うち県外) (D)	3	2	1	2	0	1	2	7	2	0
就職率 (B/A)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(うち県内就職率) (C/B)	0.8	0.9	0.9	0.9	1.0	0.9	0.9	0.5	0.8	1.0
(うち県外就職率) (D/B)	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.5	0.3	0.0



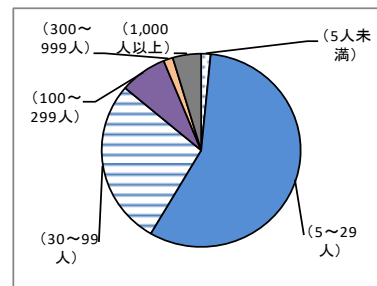
## イ 就職者の就職先事業所規模

### (ア) 県内就職者

従来は就職者のほとんどが中小企業に就職していたが、近年、好景気を反映してか中堅や大手企業への就職も増加している。なお、大半は熊本市及び近郊の企業に就職している。

(電気配管システム科) (単位:人)

事業所規模	H25	H26	H27	H28	H29	H30	6年計
(5人未満)			1				1
(5~29人)	9	8	9	4	1	6	37
(30~99人)	7	3	3	2	1	2	18
(100~299人)	1		2		2		5
(300~999人)					1		1
(1,000人以上)		1			1	1	3
合計	17	12	15	6	6	9	65

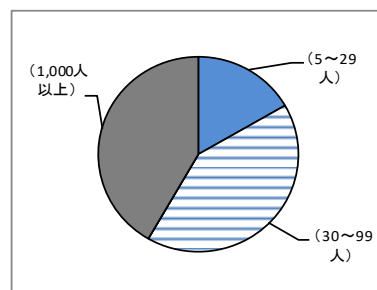


### (イ) 県外就職者

県外就職事業所の大半は大手企業へ就職している。

(電気配管システム科) (単位:人)

事業所規模	H25	H26	H27	H28	H29	H30	6年計
(5人未満)							0
(5~29人)				2			2
(30~99人)		1	2	2			5
(100~299人)							0
(300~999人)							0
(1,000人以上)				3	2	0	5
合計	0	1	2	7	2	0	12



## ③ 訓練(修了)生の資格取得の状況(実績)

(電気配管システム科) (単位:人)

修了年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
第1種電気工事士	受験者数	15	18	17	13	18	13	8	9
	合格者	15	16	16	10	13	8	7	4
	合格率	100%	89%	94%	77%	72%	62%	88%	44%
第2種電気工事士	受験者数	15	18	17	13	18	13	8	9
	合格者	15	18	17	13	18	13	8	9
	合格率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
消防設備士	受験者数	13	9	9	13	18	13	9	9
	合格者	4	1	0	0	0	2	1	0
	合格率	31%	11%	0%	0%	0%	15%	11%	0%
液化石油ガス設備士	受験者数	15	18	18	13	18	13	8	9
	合格者	14	16	10	9	10	2	3	2
	合格率	93%	89%	56%	69%	56%	15%	38%	22%
ガス溶接技能講習修了者	受験者数	15	18	17	13	18	13	8	9
	合格者	15	18	17	13	18	13	7	9
	合格率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	88%	100%
アーク溶接特別教育修了者	受講者数	15	18	17	13	18	13	8	9
	取得者	15	18	17	13	18	13	8	9
	取得率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
研削と石特別教育修了者	受講者数	15	18	17	13	18	13	8	9
	取得者	14	18	17	13	18	13	8	9
	取得率	93%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
小型建設機械特別教育修了者	受講者数	15	18	17	13	18	13	8	6
	取得者	15	17	17	13	18	13	8	6
	取得率	100%	94%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
低圧電気取扱業務に係る特別教育修了者	受講者数	15	18	17	13	18	13	8	8
	取得者	15	18	17	13	18	13	5	8
	取得率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	63%	100%
技能照査合格者	受験者数	15	18	17	13	18	13	8	9
	合格者	15	18	15	13	11	8	3	4
	合格率	100%	100%	88%	100%	61%	62%	38%	44%

### (3) 総合建築科

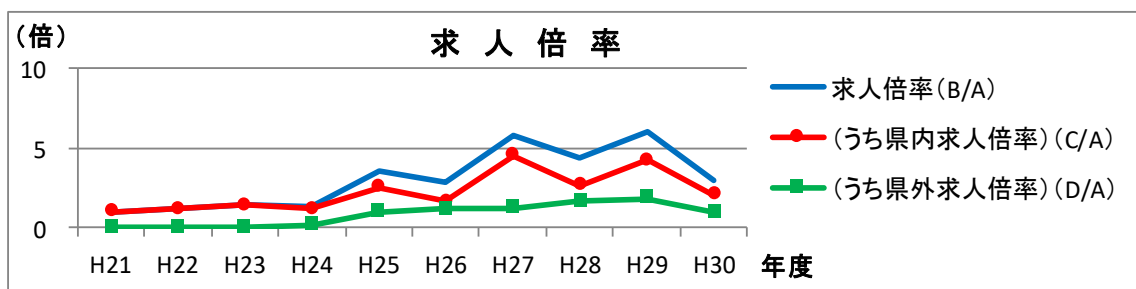
#### ① 訓練科のニーズ（求人状況）

従来はその年度に企業訪問を行い、採用状況の情報を得て求人を確保してきており、求人倍率は平成24年までは1倍を若干上回る程度で推移していた。

しかし、平成25年からは、団塊の世代等の世代交代や少子化による若手技術者不足が影響し、求人数が3倍以上に大幅に増加してきており、全国的にもこの動きがあるため、県外からの求人数も増加傾向にある。

(単位:人)

(総合建築科)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
修了者数	15	15	9	11	12	8	9	6	7	12
求職者数 (A)	8	6	7	6	6	6	4	6	5	12
求人数 (企業数) (B)	8	7	10	8	21	17	23	26	30	36
(うち県内) (C)	8	7	10	7	15	10	18	16	21	25
(うち県外) (D)	0	0	0	1	6	7	5	10	9	11
求人倍率 (B/A)	1.0	1.2	1.4	1.3	3.5	2.8	5.8	4.3	6.0	3.0
(うち県内求人倍率) (C/A)	1.0	1.2	1.4	1.2	2.5	1.7	4.5	2.7	4.2	2.1
(うち県外求人倍率) (D/A)	0.0	0.0	0.0	0.2	1.0	1.2	1.3	1.7	1.8	0.9



#### ② 就職状況（地域産業への人材供給の状況）

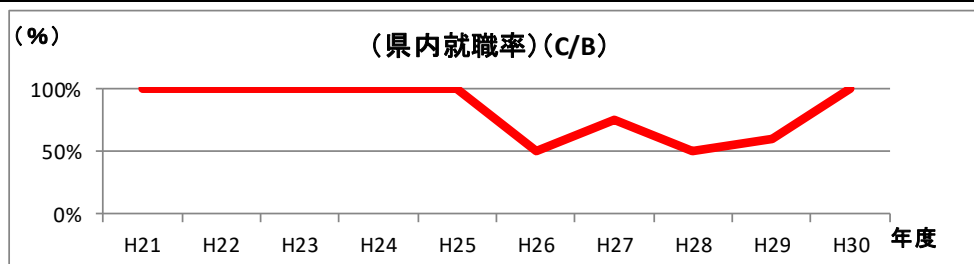
##### ア 県内就職率

就職率は、平成21年から現在まで100%を維持している。総合建築科は中卒対象の技能連携制度があり、本校修了時に進学を優先する訓練生がいることや、家業で建築業を営んでいる訓練生が自分の家に就職を希望する場合も少なくないため、修了者に対し求職者が少なくなっている。

平成25年までは全ての修了生が県内就職であったが、その後県外企業への就職が増加した時期もあったが、平成30年度に県内就職率100%を達成した。

(単位:人)

(総合建築科)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
求職者数 (A)	8	6	7	6	6	6	4	6	5	12
就職者数 (B)	8	6	7	6	6	6	4	6	5	12
(うち県内) (C)	8	6	7	6	6	3	3	3	3	12
(うち県外) (D)	0	0	0	0	0	3	1	3	2	0
就職率 (B/A)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(うち県内就職率) (C/B)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.8	0.5	0.6	1.0
(うち県外就職率) (D/B)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.5	0.4	0.0

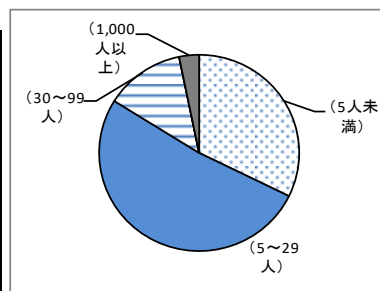


## イ 就職者の就職先事業所規模

### (ア) 県内就職者

県内では建設業の大企業が少ないため、大半が100人未満の小規模企業や中小企業へ就職している。

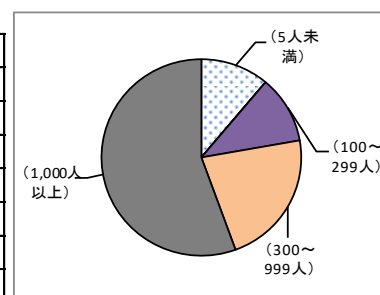
事業所規模	H25	H26	H27	H28	H29	H30	6年計
(5人未満)	2	1	2	1		4	10
(5~29人)	4	1	1	2	3	5	16
(30~99人)		1			1	2	4
(100~299人)							0
(300~999人)							0
(1,000人以上)						1	1
合計	6	3	3	3	4	12	31



### (イ) 県外就職者

県外企業は300人を超える大企業が多く、近年では毎年数人の県外就職の希望があり就職内定に結びついている。

事業所規模	H25	H26	H27	H28	H29	H30	6年計
(5人未満)					1		1
(5~29人)							0
(30~99人)							0
(100~299人)			1				1
(300~999人)		1		1			2
(1,000人以上)		2		2	1		5
合計	0	3	1	3	2	0	9



## ③ 訓練(修了)生の資格取得の状況(実績)

修了年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
2級技能士「建築大工」	受験者数	2	1	1	0	1	0	7	10
	合格者	1	1	0	0	0	0	4	5
	合格率	50%	100%	0%	0%	0%	0%	57%	50%
技能証 (2級技能士建築大工実技免状)	受講者数	7	8	10	8	8	6	0	2
	取得者	5	5	5	3	3	4	0	0
	取得率	71%	63%	50%	38%	38%	67%	0%	0%
3級技能士「建築大工」	受験者数	2	0	3	0	3	6	7	12
	合格者	2	0	2	0	3	6	7	10
	合格率	100%	0%	67%	0%	100%	100%	100%	83%
ガス溶接技能講習修了者	受験者数	9	10	12	8	0	6	7	12
	合格者	9	10	12	8	0	6	7	12
	合格率	100%	100%	100%	100%	0%	100%	100%	100%
アーク溶接特別教育修了者	受験者数	9	10	12	8	0	0	7	12
	合格者	9	10	12	8	0	0	7	12
	合格率	100%	100%	100%	100%	0%	0%	100%	100%
研削と石特別教育修了者	受験者数	9	11	12	8	9	6	7	12
	合格者	9	11	12	8	9	5	7	12
	合格率	100%	100%	100%	100%	100%	83%	100%	100%
小型建設機械特別教育修了者	受講者数	9	10	12	8	9	6	7	11
	取得者	9	10	11	8	9	6	6	11
	取得率	100%	100%	92%	100%	100%	100%	86%	100%
丸のこ等取扱作業従事者 安全衛生教育	受講者数	0	0	0	8	9	0	7	12
	取得者	0	0	0	8	7	0	7	12
	取得率	0%	0%	0%	100%	78%	0%	100%	100%
福祉住環境コーディネーター2級	受講者数	9	3	5	8	9	6	7	12
	取得者	2	0	2	0	3	0	1	1
	取得率	22%	0%	40%	0%	33%	0%	14%	8%
技能照査合格者	受験者数	9	11	12	8	9	6	7	12
	合格者	9	11	12	8	9	4	7	12
	合格率	100%	100%	100%	100%	100%	67%	100%	100%



## 4 訓練施設の老朽化の状況

### (1) 自動車車体整備科

下に記載の経過年数はR2.3月末時点

#### ① 1年実習棟

昭和41年に新設（鉄骨構造）され53年が経過しており、耐用年数（31年）は22年を超過している。新設当初は当時の木材工芸科の実習場として使用していた。鉄骨構造で耐震強度が不足していたため、平成30年に補強工事を施工している。

#### ② 2年実習棟

昭和39年に新設（鉄骨構造）され56年が経過しており、耐用年数（31年）は25年を超過している。新設当初は、実習スペースを当時の自動車整備科、配管科及び電気工事で区分して使用していた。現在は自動車車体整備科2年実習棟として使用している他に、同実習の合間を縫って技能検定試験の実技試験会場としても活用されている。鉄骨構造で耐震強度が不足していたため、平成30年に補強工事を施工している。

#### ③ 3年実習棟

昭和46年に新設（鉄骨構造）され49年が経過しており、耐用年数（31年）は18年を超過している。新設当初は、当時の鑄造科や配管科の実習場として使用していた。そのため、自動車車体整備科の訓練に必要な自動車塗装ブースやフレーム修正用リフト等を実習棟内に設置しなければならなかったため、現在、安全な作業スペースが十分に確保されていない状態である。

### (2) 電気配管システム科

#### ① 1年実習棟

平成4年に新設（プレハブ）され28年が経過しており、耐用年数（20年）は8年を超過している。新設当初は、当時の総合建設科の実習場として使用していた。面積は標準的な基準（400㎡に対して200㎡）を満たしておらず、また天井も2.5m程度と低いため、実習で長物を扱う際は安全に作業できていない状態である。

#### ② 2年実習棟

昭和56年に新設（鉄骨構造）され39年が経過しており、耐用年数（31年）は8年を超過している。一部増設を行っているが、面積は標準的な基準（460㎡に対して430㎡）を満たしていない。手狭のため溶接、エコキュート、配管及び技能五輪などの各種実習に際し支障を来しており、また、備品や機材の保管スペースも確保できていない状態である。

### (3) 総合建築科

#### ① 1年実習棟

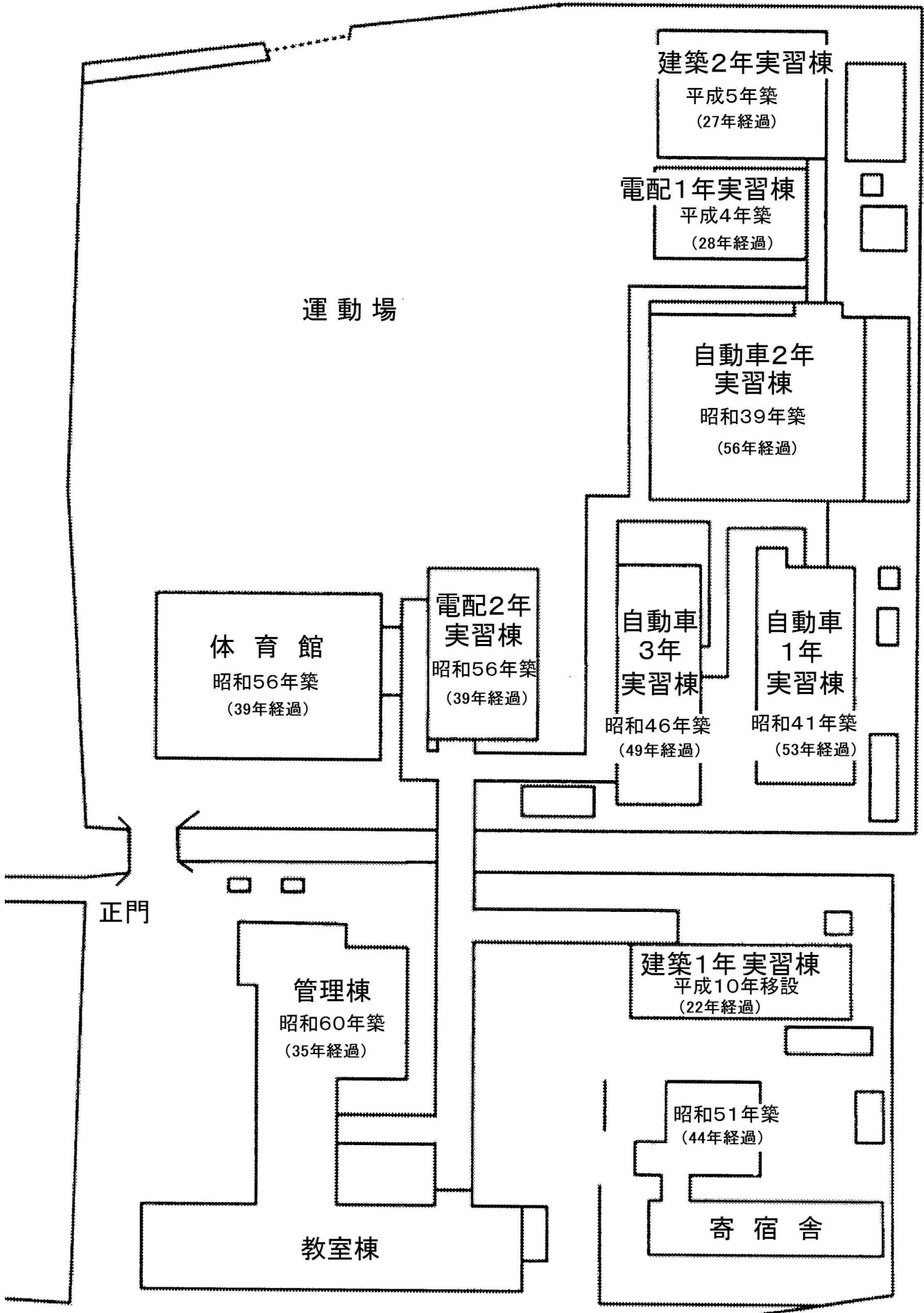
天草工業高校の建て替え時に仮教室として使用していた軽量鉄骨のプレハブを、平成10年に移築して使用している。総合建築科実習棟目的で使用する構造ではないため天井高も低く幅が狭い。実習場の一角に動力機械による製材スペースがあるが、訓練生の通路となっているため安全確保に細心の注意を払っている状況。

#### ② 2年実習棟

平成5年に新設（木造トラス構造）され27年が経過している。壁やスレート屋根には断熱材が入っていないため、夏は暑く冬は寒い。扇風機やストーブを使用して訓練環境を辛うじて維持している状況。天井高が低いため模擬家屋実習の際は建高を低く設定して建てなければならず実習に支障を来している。

# 高等技術専門校建物配置図

( )内はR2.3月末時点の経過年数





## 第3 専門校で育成する人材像

本校では、時代のニーズに対応した訓練内容を充実させながら、地域産業が求める知識と技術を有し、社会人として信頼される技術者を育成していくために、施設内訓練3科で育成していく人物像を次のとおり設定する。

### 1 志高く、高い技能と現場対応力を有する人材

基礎技術を確実に習得し、仕事の現場で活躍するために必要な高い技能等を身に付けた人材を育成する。

また、修了後に1級自動車整備士、第1種電気工事士、1級技能士（建築配管・建築大工）等の資格取得に挑戦する高い意欲を持った人材を育成する。

※ 上記の資格等は実務経験等の要件が必要となるため、在校中の資格取得はできないが、この資格取得の技能レベルを目指していく。

#### （1）自動車車体整備科

- ① 新技術に対応した整備技術を身に付けた人材
- ② 就職内定先の技術や業務に即したオーダーメイド型訓練の実施による即戦力人材

#### （2）電気配管システム科

- ① 建築設備工事全般に対応できる、施工管理技士（電気・管工事）に必要とされる基礎知識・技能（技術）及び関連資格を身に付けた人材
- ② 新築工事のみではなくリニューアル工事も含め、多様な現場で、施工上の問題・課題を自ら発見し、考え、対応できる人材

#### （3）総合建築科

- ① 古民家再生から現代住宅に対応できる建築大工に必要な基礎知識・技能（技術）及び関連資格を身に付けた人材
- ② 地震等自然災害からの復興や高齢化社会において建築が抱える諸課題に対応できる人材

### 2 豊かな社会性を持った人材

- 広い視野と探究心を備え、実践の場で発生する課題・問題を自ら発見し対応できる人材
- 技術者が持つべき倫理観を備えた人材
- 礼儀とマナー、そしてコミュニケーション能力を兼ね備えた人材